

行政委託事業 青少年育成地区委員会の 成り手不足における諸問題への取り組み

目標再確認の「特別会議」を実施して起きた成果と学びの共有

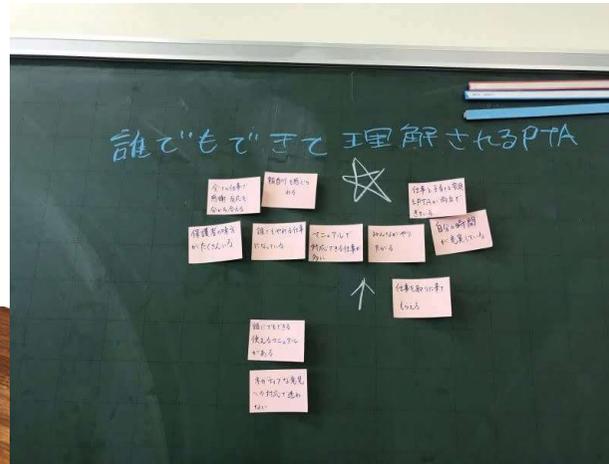


練馬区青少年育成 関地区委員会
関町小学校 校区副会長 林 素良

自己紹介 林 素良(はやし そら)

練馬区 青少年育成 関地区委員会 関町小学校 校区副会長 を務めています

簡単に説明すると 行政委託事業を 地域住民として ボランティアで 支えているひとりです



青少年育成 地区委員になった きっかけ

もとはといえば 地域の小学校で PTA役員を やっていたことが きっかけです

このような 青少年の健全育成にかかわる組織が 全国的に存在することや
こんなにたくさんの地域の方が ボランティアで
小中学生 親子のために 関わってくれていることを 私は知りませんでした

子どもたちのための 様々なイベントを
開催するのが楽しくて 校区を越えた
地域の方々との関わりが楽しくて
活動を続けて **5年目**になります💡

良質な地域のつながり=コミュニティは、
自分の住む地域に **助け合える人**を
増やして 自分の身の回りの 安心安全を
守ることにつながると 考えています💡



そもそも 青少年育成 地区委員 とは

練馬区 こども家庭部 青少年課 青少年係 のもとで各地区ごとに活動

育成地区委員は 各地区の会長からの推薦に基づき
区長より委嘱を受けて 青少年の健全育成と社会環境の浄化に向けた活動をしています。

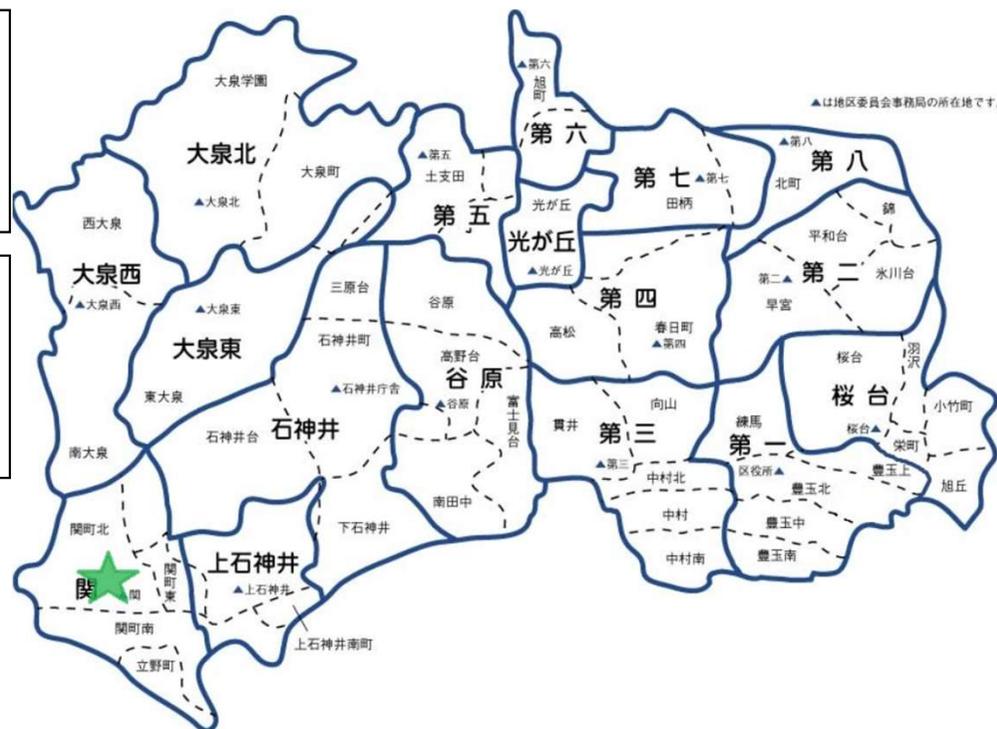
【委嘱(いしょく)・意味】

専門的な知識やスキルが必要な特定の仕事や役割を一定期間、外部の個人や組織に依頼すること

【専門的な知識やスキル=求められている資質】

- 青少年関係団体で積極的に活動している方
- 青少年関係機関のリーダー
- 特に地区委員として適任と認められる方

私が所属している
関地区委員会は、ココ！
練馬区の西の端ですね💡



関地区では 主にPTA役員に 推薦の声がかかります

PTA役員が 当職の形で 1年間 委嘱を受けて活動して その後 継続か退任の意思を 問われます

最近では 当職のような 強制的な依頼は 見直しが必要と なってきています

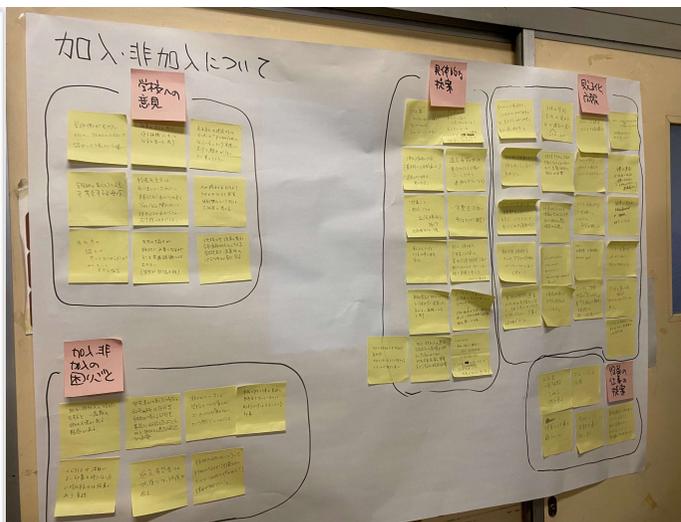
PTAの負担軽減が叫ばれる中 PTA役員の仕事に 地区委員の仕事を兼務
しなければならないことは 現役世代の保護者にとって とても大きな負担となります💧
地区委員の活動を わかりやすく説明 した上で 協力を 依頼しに行きます☆

青少年育成 関地区委員会

2025年度PTAの皆様への説明資料



01



関地区の 主な活動内容は

部会・校区の 垣根を越えた 全体事業「じゃがいもほり」ほか
部会・校区ごとの「イベント」 地域祭の「みまわり」 近隣店舗への見守り「協力依頼」

関地区委員会では「4つの校区」「4つの部会」に所属しており それぞれの委員は全員
「校区活動」「部会活動」両方を こなしている状態にあります。
それだけでも 忙しいですが さらに 私のように 役員を務めると
必然的に 月3回以上の 会議への参加が 求められます。



3年目の時 突然 役員に 抜擢されました💧

関地区委員会の 活動の持続性に 限界を感じました

なぜならば 経験の浅い私が 役員を担わなければならないほど 深刻な 人手不足 が起こっていた💧

BMCと一緒に受講したチーム行マ研Next Innovatorに 相談をしました☆

1. チーム行マ研NextInnovator結成の話

実践TOCブレイクスルー・マネジメントコース

- ・ゴールドラットスクール国際資格認定プログラム
- ・ユタ州のクリスティン・コックスさんが特別講師

チーム行マ研として参加
主婦 林、空自 柳田、東芝 上原、ソニー 宇山



全米行政改革アワードを
受賞！！



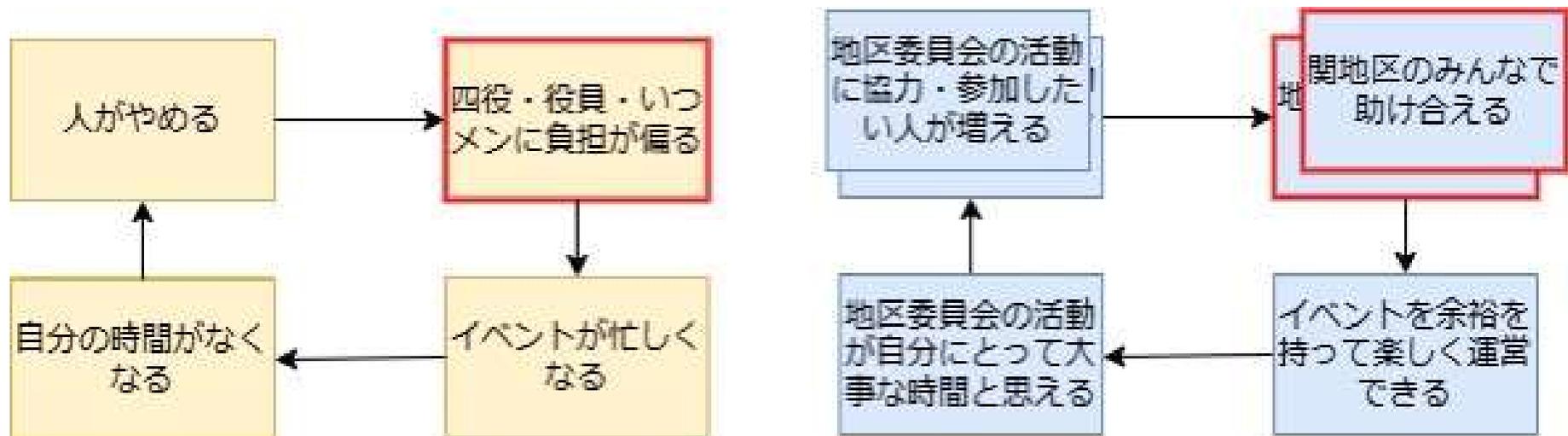
2021年
BMC(ブレイクス
ルー・マネジメント
コース)を共に
受講してくれる
仲間を結成☆



チーム行マ研 Next Innovator との 私の 課題の検討が スタートしました💡

私にとって 最強の仲間と 16時間以上もかけて 検討を重ね
ヴィシヤスの教科書まで 作り上げるほどに 考え抜きました(笑)

その結果 フルキットは 問題解決を進める ウェーブを 起こすことが わかりました💡



その結果 副会長として 司会をすることになった役員会議で

現状の不安や困りごと(UDE)が次から次へと寄せられた

手段ばかりが飛び交い、会議の收拾がつかなくなりそうだったので
思い切って「まずは 問題が何か 整理してみましょう」と言ってみたのです💡

所属だけして無理
して参加しない

役員の負担軽減

アピールポイント
を伝える

部会の統合

実際の活動頻度を見え
るかして伝える

会議の開催時間や曜日の変更

アンケートを
取る

説明資料をもっと
充実させる

フルキットしていたから「継続的な話し合いが必要」 という 会議の中での合意形成につながった💡

チーム行マ研のメンバーに フルキットの成果を共有し ミステリー分析をしました。

- ① どのような問題が起こっていますか？思ったようにいかなかったことは何ですか？
- ② 当初の思惑は何でしたか？
- ③ 当初の思惑（結果）を引き起こすために何のアクションをしましたか？
- ④ 思惑に反して、実際にはどういったことが起きましたか？
- ⑤ 何が原因で④が起こってしまったのでしょうか？
- ⑥ この原因を解消するうまい手はありませんか？
- ⑦ ⑥を行うと、当初の思惑②が現実になりそうですか？
- ⑧ の中で何かが違うと感じたら論理的に筋が通った内容になっているかCLRで検算しましょう

①：素良さんが、役員会の時間を使って議論を進めたいとする前に、四役の他の人からそのような話が出た

準備ができていると
チャンスが来たときに
つかむことができる☆



準備が出来ているとチャンス
が来たときに掴むことが出来る

Good luck is when opportunity
meets preparation, while bad
luck is when lack of preparation
meets reality.
(ゴールドラット博士の格言)

④他の四役の人からゴール検
討について、「役員会の中
で、集中して時間を取って議
論すればよい」と意見が出た

②素良さんがゴール
検討を担当して議論
していくことを四役
に合意してもらう

⑤色々な人に事前相談した
・丹部さんに、懸念も共有し
て協力してもらえるような状
態を作っていた
・日頃から活動の問題意識が
あって、そこに素良さんがミ
ートする話題を振ることが出
来た←A
・PTAから一緒に活動してい
る会長（本業コンサル）が、
素良さんの提案は良いと思っ
て賛同した

③四役会に、一部メ
ンバーに事前相談し
た上で資料を作成
し、会議でも確認・
相談した

木村さんは「自分がそこまで
手を動かなくて良いのね」と
思ってくれた←A

A
素良さんがきちんと準備をし
た

真剣にやっている姿を見ると
人は応援してくれる

「継続的な議題」として「特別会議」の開催へと盛り上がった

PTAのときのチャレンジの失敗を思い出し 準備の検討を 慎重に行うことにした。
 チーム行マ研のメンバーと TrTを書いて 今後の進め方を検討💡

今後の地区委員会についての検討（こんな議題を扱う、といったところまで話している）
 ①現状確認（何に基づいて毎年の活動を行うことになっているのか？規約内容や決定のプロセス） ←緊急度中、重要度特高
 ②現役PTAへの協力依頼と構成員の見直しやリクルートの方法 ←緊急度高、重要度高
 ③地区祭への関わり方やあり方、開催そのものへの検討も含めて ←1,2の合意がないと3は扱えない

「誰に“何を”はODSCでいう
 D (Deriverableness : 成果物)
 「何を達成」はO
 (Objectives : 目的)

①の具体的検討の視点
 ・活動がミッション（何のために？目的）に沿っているか？
 誰に何を提供することで何を達成するの？
 ・オーナー：自治体
 ・重要なステークホルダー：学校、児童、町会、地域の方々

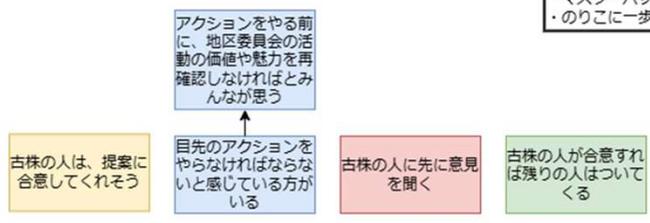
Y: やったこと
 ・10/29(火)に検討したTrTを、11/1(金)の四役会を踏まえて確認した
 ・11/1(金)の四役会で挙がった意見に対する小さなTrTを検討した

W: わかったこと
 ・10/29(火)に検討したTrTのプロセスはよく描けているものだった
 ・小さなTrTを検討したことによって、四象限を角ほどではないと確認できた
 ・相手に合わせて言葉を変えることが大事
 ・こちらから先回りして言うのではなく、相手からいかに言葉を引き出すかを準備することが大事

T: 次にやること →11/14(木)予定
 ・11/8に、継続議題については委員さんが担当することでどうかと投げ掛ける
 ・次のNext Innovator会は、雑談ベース・飲みありで行う（ラフに反省もしながら）

M: メリット
 ・話し合いを、解決策を出すまでやり切れる
 ・TOCを語ることは楽しい
 ・メリハリをつけられる、今後もっと鋭い意見が出る
 ・則尾さんと柳田さんも参加しやすい（かもしれない）

・「わかつたつもり」を防げる
 ・マスターバッジ取得に一步近づく
 ・のりこに一步近付ける

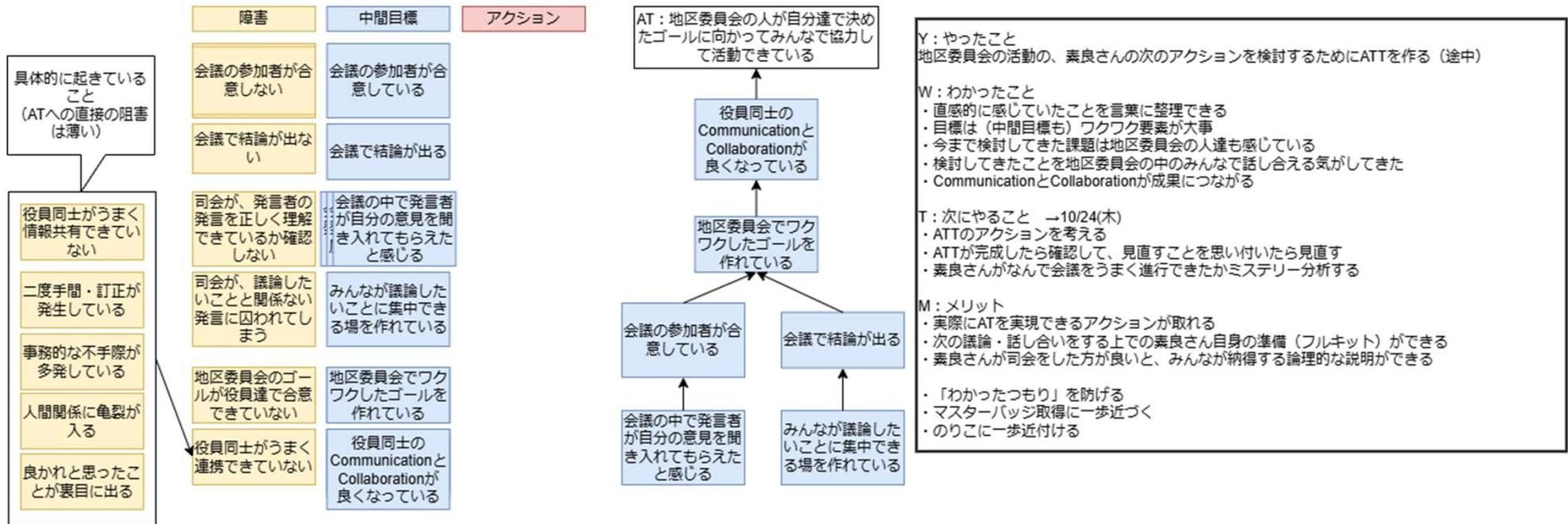


「継続的な議題」として「特別会議」の開催へと盛り上がった

PTAのときのチャレンジの失敗を思い出し 準備の検討を 慎重に行うことにした。
 さらに チーム行マ研のメンバーと ATTを書いて 今後の進め方を検討💡

ゴール：子どもも大人も安心して暮らせる、家族のような地域を作る

AT：地区委員会の人各自が自分で決めたゴールに向かってみんなで協力して活動できている



さあ いよいよ「特別会議」開催だ☆

PTAのときのチャレンジの失敗を思い出し 準備の検討を 慎重に行うことにした チーム行マ研のメンバーと ATTを書いて 今後の進め方を検討💡

1. 特別会議をすることになった経緯

現状の「目標」 → 実現したい「目標」

「現状」 → 「課題」 → 「方法」

「現状」 → 「課題」 → 「方法」

2. 私たちの「困りごと」を解消するために、先に改善案や手段ではなく、「手段」の先の「ありたい姿」を思い浮かべていませんか？

現在地？ → ルート？ → 手段？ → 目的地？

「現状」 → 「課題」 → 「方法」

3. 新たに「目標」を決めるという感覚ではなく、それぞれがまだ言葉にしている「大事にしていること」を共有してませんか？

目標、目的、手段について調べたところ、次のような意味があることがわかりました。(Google生成AI 調べ)

- 目的、目標、手段は、物事を進める際に重要な要素で、次のような違いがあります。
- 目的：最終的に実現したい事柄で、抽象的で理想的なものです。
- 目標：目的を実現するためにやらなくてはならない事柄で、具体的な現実的なものです。
- 手段：目標を実現するために、行うことです。

ゴール → STEP → 方法 → 目的

4. 問題を整理するための「目標」の確認 「手段」を決める際、対立ではなく合意形成しながら論理的に話し合いを進めるための「目標」の確認

JIS Q 9024によると、問題とは「設定してある目標と現実との、対照して克服する必要があるギャップ」と定義されています。(Google生成AI 調べ)

現在地？ → ルート？ → 手段？ → 目的地？

「現状」 → 「課題」 → 「方法」

1. 特別会議をすることになった経緯

各学校のPTAの担任加となり、対応の種別が必要となってきます。また、事業開始時の参加する子どもの減少や保護委員の不足も課題として出てきており、適切な対応が求められることも懸念が寄せられました。

この1つは課題を解決し、新しい機会を必要とする方向に、私たちが目指している方向性を軌道に乗せて説明できるように考えました。私たちの活動を伝えたいという思いで、キックオフをやる必要があるというように、開催委員が欠席したくないという「目標」という形で共有して会議をしていこうと話し合いました。

2. なぜ、目標を言葉にすることが大事なのか？

目標、目的、手段について調べたところ、次のような意味があることがわかりました。(Google生成AI 調べ)

- 目的、目標、手段は、物事を進める際に重要な要素で、次のような違いがあります。
- 目的：最終的に実現したい事柄で、抽象的で理想的なものです。
- 目標：目的を実現するためにやらなくてはならない事柄で、具体的な現実的なものです。
- 手段：目標を実現するために、行うことです。

3. 手段ばかりを話し合うとどうなるの？

想像してほしいですが、「手段」ばかりを話し合うと、どうなると思いますか？手段はあくまで、目的を達成するためのものであり、論理的な解決を導くためのものではありません。手段はあくまで、目的を達成するためのものではなく、目的を達成するためのものではないでしょうか？

4. ここに、こんな対立解決の事例があります。

共通目標 vs 対立

5. 「目標」を確認 対して合意形成するための「目標」の確認

さて、手段・目的・手段の話をしました。対立を解消し、合意形成を図るには「目標」が大事というところを強調したいので、このようにして、目標を確認するための「目標」の確認とどう違うかわかりませんか？

6. 「目標」を確認するやり方 ※「目標」を言葉にするやり方が有効な理由

「目標」を確認するやり方 ※「目標」を言葉にするやり方が有効な理由

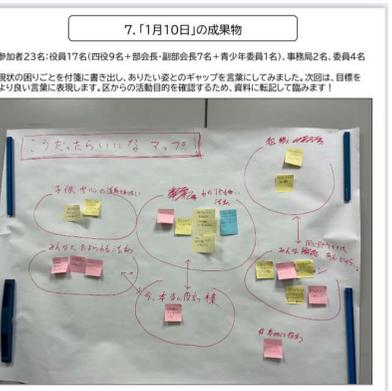
- ① 私たちが活動によって解決したい「困りごと」を言葉にする。
- ② 「困りごと」がどんな状態だったのか「ありたい姿」を言葉にする。
- ③ 「現状」を言葉にする。
- ④ 「現状」を言葉にする。
- ⑤ 「現状」を言葉にする。

7. 「1月10日」にやること

- ① 私たちが活動によって解決したい「困りごと」を言葉にする。
- ② 「困りごと」がどんな状態だったのか「ありたい姿」を言葉にする。
- ③ 「現状」を言葉にする。
- ④ 「現状」を言葉にする。
- ⑤ 「現状」を言葉にする。

8. 「2月14日」にやること

- ① 私たちが活動によって解決したい「困りごと」を言葉にする。
- ② 「困りごと」がどんな状態だったのか「ありたい姿」を言葉にする。
- ③ 「現状」を言葉にする。
- ④ 「現状」を言葉にする。
- ⑤ 「現状」を言葉にする。



8. 「2月14日」にやることの確認

3. 「ありたい姿」をまとも、よりよい「目標」を言葉にする。

よい「目標」の条件:

- ① みんなが読んでワクワクする
- ② 自分達で達成できるもの
- ③ 活動がわかるように表現されている
- ④ 活動がわかるように表現されている
- ⑤ シンプルで記憶に残る

好循環の結果として、起こる状態がどんな状態なのかを考えると、このように進めようか？

9. 区から与えられた目的や規約の中に示された目標との照らし合わせ

4. 活動方針や目的からずれていないかを確認しましょう。

2022年4月1日改訂後の規約に入っている活動目標

- ① 青少年の健全な人間づくり
- ② 青少年の体力づくり
- ③ 青少年の精神づくり
- ④ 青少年の心身づくり
- ⑤ 練馬区青少年活動方針に定める目標

7. 「1月10日」の成果物

参加者23名、役員17名(役員9名・部長・副部長7名・青少年委員1名)、事務局2名、委員4名

現状の困りごとを付箋に書き出し、ありたい姿とのギャップを言葉にしてみました。次回は、目標をより良い言葉に表現します。区からの活動目的を確認するため、資料に転記していただきます！

10. 今回やったことの振り返りと今後の話し合いの検討

1. やったことは何ですか？
2. 「活動の課題」として「あったらいいな」を付箋に出して整理した。(1/10に実施)
3. 区から与えられている大目標を達成するために「相違点としてあったらいいな」をひとつのシナリオで表現すること、よりよい目標の言葉にする。(2/14に実施予定)
4. わかっていたことや気づいたことは何ですか？
5. アーケードの話し合いを合わせ、目標達成のための活動やアクションの検討
6. 次に行うこととつながるメリットは何ですか？

ボランティア活動の意義は 人との良質なつながりを 作るところにある と 私は 思っています

それなのに 実際は 論理的な話し合いができずに摩擦や対立から
感情的になる人が多く 人間関係で 心理的な負担が生じることが多いのです

育成活動で大切な4つの目標を確認しよう！

- ### 1 心のかような明るい家庭づくりを進めよう


 - ・家庭教育は教育の原点です。家庭でもともに過ごす時間や、日々の会話の中で、子どもは人と触れ合う楽しさや正しい規範意識を育んでいきます。
 - ・家庭で基本的な生活習慣を身につけて、健康で、いきいきとした生活を送ることが大切です。

左側 佐野 弘人 兵庫県大東郡西小学校2年級

●家族の日 11月17日(日) ●11月第3日曜日 ●家族の週間 11月10日(日)～23日(土) ●家族や地域の大切さ等
- ### 2 青少年の社会参加の機会を増やそう


 - ・子どもは、体験から多くのことを学びとります。
 - ・地域でのさまざまな経験を通して、学ぶこと、働くことの意義や楽しさを実感し、社会参加の意識が養われます。

左側 佐野 弘人 兵庫県大東郡西小学校2年級
- ### 3 健全で安全な社会環境づくりを進めよう


 - ・子どもの成長にとって、地域の環境はとても大切です。地域の皆さんが声をかけ合い、子どもたちを取り巻く健全で安全な環境を作ることが必要です。

左側 佐野 弘人 兵庫県大東郡西小学校2年級
- ### 4 家庭・学校・地域・関係機関の連携を深めよう

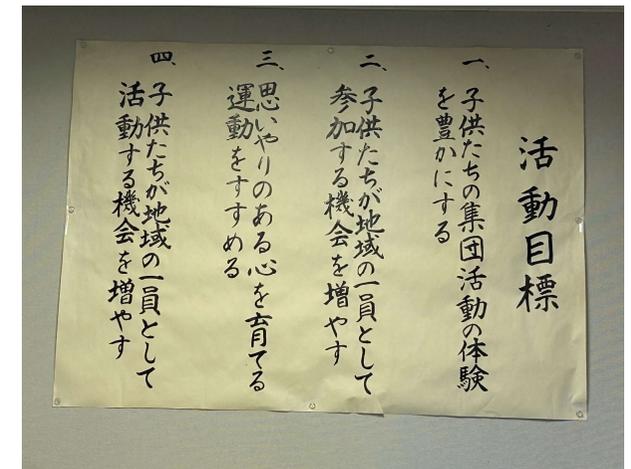

 - ・子どもは、学校教育を受けながら、家庭や地域社会の中で成長します。家庭・学校・地域・関係機関が一体となって子どもを見守ることが大切です。
 - ・お互いの信頼関係のもと、それぞれの役割を自覚し、交流、情報交換を行い、協力し合うことが必要です。

左側 佐野 弘人 兵庫県大東郡西小学校2年級

青少年育成地区委員会

青少年育成地区委員（地域のボランティア約2,000人）が地域の特色を生かした行事を企画・運営しています。

野外活動 キャンプ ハイキング 川遊び 飯ごう炊さん 潮干狩り いもほり など	スポーツ キャッチバレーボール バドミントン サッカー・野球 スケート教室 なわとび記録会 ポウリング など	文化事業 音楽祭 カルタ大会 折り紙教室 自転車安全教室 中学生意見発表会 救命救急講習 など	地域交流 地区祭 地域の清掃活動 環境パトロール ボランティア体験 うどん作り もちつき大会 など
--	---	--	--



それは PTA から始まった 小さな取り組みだった。
小さなボランティアのつながりは 年々広がっています。
たくさんの人と 大規模なイベント開催を経験してきました。

気づけば 自分も家族も 地域の良質なコミュニティの中において
日々 安心感に包まれています。

